

## 議 事 要 旨

議 事 要 旨	
会 議 名	徳島県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会会議
日 時	平成31年1月21日(月) 19:15～20:30
場 所	大会議室(徳島大学病院中央診療棟)
出 席 者	滝沢会長、金山部会長、寺嶋委員、嶋田委員、後藤委員(町田代理)、渡辺委員、漆川委員、正宗委員、林委員、高橋委員、藤原委員、森委員、宮上委員、山口委員、東條委員、中村委員、鎌村委員 ※( )は代理出席者〔敬称略〕
実務者	徳島大学病院:三木看護師長、福田社会福祉士、宮崎臨床心理士、高田相談看護師 徳島県立中央病院:有馬社会福祉士
欠席者	安藤委員、坂東委員、川崎委員
陪席	徳島県健康増進課:原田課長補佐 徳島大学病院:古田専門職員、宮越事務補佐員

### 議 題

金山部会長の司会進行のもと、がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会会議が開催された。開催にあたり、滝沢徳島県がん診療連携協議会会長から挨拶があった。

### 【報告事項】

#### 1. 都道府県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会報告について

徳島大学病院実務者の福田社会福祉士から、別紙資料1「第11回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会」についての報告があった。

##### (1) 第11回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会について

平成30年12月4日に第11回部会が開催され、徳島県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会金山部会長が欠席のため、滝沢会長と福田社会福祉士が参加した。

1. 議事としては「がん診療連携拠点病院の新整備指針におけるがん相談支援センターの役割」と「がん対策情報センターおよび各県・ブロックからのお知らせ」の2部構成であった。
2. がん診療連携拠点病院の新整備指針におけるがん相談支援センターの役割として、改正の要点はがん相談支援センター周知について外来初診時に主治医等から、がん患者及び家族に対してセンターについて説明する等、周知が図られる体制を整備する。がんゲノム医療、希少がん、AYA世代の療養や就学就労に関すること、がん治療に伴う生殖機能への影響や温存など自施設での提供が難しい場合には適切な医療機関に紹介する。
3. 新整備指針において拡充された業務に対する現状など、拠点病院へのアンケート結果については、①ゲノム医療や実施体制に関する知識・情報がない、マスコミ・メディアによる影響。②希少がんの知識・情報が不十分、標準治療未確立・限られた情報の中での支援の難しさ、症例検索システムの限界・使いづらさ、希少がんセンターとの連携に課題がある。③AYA世代の潜在的なニーズはあるのかもしれないが拾い上げが難しい。当事者同士の交流の場がない、学校との連携が難しい・就学

支援のための資源がない。④生殖機能の潜在的なニーズはあるのかもしれないが拾い上げが難しい。

4. 部会としての今後の取り組みについて、新整備指針に基づいたがん相談支援センターPDCA 実施状況チェックリストの更新、現状と新整備指針を踏まえて改定を行う。改定に当たっては新整備指針への提言を取りまとめたWGメンバーに継続して検討を依頼。徳島県でも国立がん研究センターのフォーマットを使用してPDCAサイクルを運用している。
5. がん対策情報センターおよび各県・ブロックからのお知らせとして地域相談支援フォーラム開催予定のお知らせがあった。
  - ・2019/1/26(土) 地域相談支援フォーラム in 九州沖縄@宮崎
  - ・2019/2/9(土) 地域相談支援フォーラム in 四国@香川
  - ・2019/11/9(土) 地域相談支援フォーラム in 北関東甲信越@茨城
6. 件数カウントの導入状況と新指針を踏まえた変更案について、2019/1に改訂版(Ver2.0)公開予定である。

滝沢会長から、がんゲノム医療についてはこの4月より保険適用になる予定である。その際には、メディアで取りあげられ問合せが多くなると予想される。現在は徳島県内では徳島大学病院でがんゲノム医療としてパネル検査を行っており、詳しくは徳島大学病院がん診療連携センターホームページに情報を掲載している。また、AYA世代のがん治療に伴う生殖機能への影響や温存なども掲載をしているが、色々な問合せでわからないことがあれば当院のがん相談支援センターに連絡をしていただきたいとの案内があった。

金山部会長から件数カウントの導入は保険診療に結びつかないのかとの質問があった。

福田社会福祉士から、まだそこまでの議論が進んでいない。現在は、活動の評価の方法などで議論されており、保険診療にはまだ結びついていないとの回答があった。

## 2. 徳島県民がんフォーラム報告について

金山部会長から、別紙資料2「徳島県民がんフォーラム2017実施報告者」について報告があった。

- ① 平成30年9月9日(日)13:30～16:00徳島大学大塚講堂で徳島県がん診療連携協議会診療連携部会、情報提供・相談支援部会、緩和ケア部会が主催、徳島大学病院がん診療連携センターと徳島新聞社が共催で開催を行った。
- ② 内容は「がんとうまく付き合う患者術・生活術」として徳島県がん診療連携協議会滝沢会長、徳島大学病院の武知医師、徳島大学病院栄養部の松村氏、聖路加国際病院の橋本氏に就労支援、徳島大学病院の三木看護師長にがん相談支援センター活用術、休憩に阿波踊り体操を交えて講演をいただいた。
- ③ 当日の総来場者は620人と非常に多数の参加があった。アンケート結果は資料を参照。ケーブルテレビでも放映を行った。
- ④ 患者の会やリレー・フォーライフの方にも協力をいただき、ポスター展示等も行った。
- ⑤ 参加者の年代は70代、60代の方が多く参加いただいた。

金山部会長から、がん相談支援センターを周知することも大きな目的としており、今後も引き続き毎年市民公開講座を行いたい。その際には協力をお願いしたいとの要望があった。

### 3. PDCAサイクルについて

三木看護師長から、別紙資料3に基づき「平成30年度都道府県がん診療連携拠点病院PDCAサイクルフォーラム研修会報告」について説明と報告があった。

- ①平成31年1月12日に国立がん研究センターで開催され参加した。
- ②第3期がん対策推進基本計画では国が取り組むべき施策として、拠点病院等における質の格差を解消するため、診療実績等を用いた他の医療機関との比較、第三者による医療機関の評価、医療機関間での定期的な実施調査等の方策を検討し、質の改善を図ることが求められている。相互評価（ピアレビュー）を行っている施設は1割～3割と少なかった。PDCAサイクルにおいてはACT（改善）が重要であり、都道府県内の相互評価が改善に重要な役割を持つため、その重要性が説明された。
- ③都道府県レベルでのがん診療の質の向上を目指す取り組みとして、1研修会の開催、2相互評価の実施、3都道府県内で共通目標を設定した改善活動の実施の3つがあげられた。がん診療評価指標（QI）などのツールを用いて相互評価するなどして、診療の質改善を目指す。3については、都道府県計画のがん対策推進計画に基づいて県内のがん診療連携拠点病院の共通目標を設定し、共通目標を達成するために各病院が施設目標を定め、施設計画を立案していくモデルの一例が紹介された。
- ④宮城県の取り組み、愛知県の取り組み、愛媛県の取り組みが紹介された。

金山部会長から、愛媛県は愛媛県がん診療連携協議会の各専門部会の上にPDCA部会があり、県全体で取り組んでいるのが素晴らしいのではないかとの意見があった。

三木看護師長から、愛媛県だけではなく他県の発表された方からも、そのような取り組みをされている。今回の研修会でも参加者は病院長、副病院長の方々の参加がほとんどであり、病院全体として取り組んでいるとの意見があった。

金山部会長から、徳島県としても見習って取り組んで行かなければいけないとの意見があった。

### 4. 実務者のがん相談支援センター相談員研修会等について

福田社会福祉士から、別紙資料4「平成30年度がん相談員研修会実施報告」について報告があった。

- ①今年度は徳島県で開催された研修会はなかった。
- ②相談対応の質保証(QA)を学ぶ研修を平成30年11月3日(土)に高知県オーテピア高知図書館4階ホールにて開催した。当院から2名とファシリテータとして2名が参加した。
- ③地域相談支援フォーラム in 四国を平成31年2月9日(土)香川国際会議場にて開催予定である。申込期日は平成31年1月25日迄のため参加いただきたい。
- ④次年度以降も継続して四国4県持ち回りで開催を検討中である。香川→高知→愛媛→徳島の順で開催する予定である。

金山部会長から、四国4県での持ち回りフォーラムは年に1回の開催予定なのかとの質問があった。

福田社会福祉士から、年1回で開催予定であるとの回答があった。

## 【協議事項】

### 5. 来年度事業計画について

福田社会福祉士から、別紙資料5「次年度研修計画」について説明があった。

- ①相談対応の質保証(QA)を学ぶ研修@香川を平成31年8月頃に主催：香川県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会、後援：徳島県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会で開催予定である。
- ②相談対応の質保証(QA)を学ぶ研修@徳島を平成32年1月～2月頃に主催：徳島県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会、後援：香川、愛媛、高知、各県のがん診療連携協議会情報提供・相談支援部会で開催予定である。国立がん研究センターがん対策情報センターへ講師派遣の依頼申請済みである。

福田社会福祉士から、相談対応の質保証(QA)を学ぶ研修は拠点病院の相談員向けのため、地域医療機関向けの研修会を企画するかどうか検討いただきたいとの要望があった。また、企画を行う場合など実務者の方に協力をして頂きたい。今後は、①地域の療養情報チーム②PDCA サイクルチーム③研修企画チームの3つに振り分け、各チームリーダーはがん診療連携拠点病院になっていただき、各施設の実務者が委員となり事業をすすめていきたい。実務者会における各分野推進チーム(案)を作成したため、内容を確認いただき進めてもよいかとの伺いがあった。

出席委員で検討の結果、了承された。

金山部会長から、実務者の方に参加いただき、各チームの企画を行っていただきたい。各施設にも協力いただきたいとの依頼があった。

### 6. その他

#### ①がん相談支援センター周知について

滝沢会長から、別紙資料6「がん相談支援センター周知」について説明があった。

- ①第3期がん対策推進基本計画では相談支援の現状と課題につきて記載されている。
- ②拠点病院等や小児がん拠点病院のがん相談支援センターは、自院の患者だけでなく、他院の患者や医療機関からの相談にも対応しており、相談件数は年々増加している。
- ③平成26年度の患者体験調査では、がん相談支援センターの利用率は7.7%となっており、相談支援を必要とするがん患者ががん相談支援センターを十分利用するに至っていない。
- ④徳島県として県民がんフォーラムや、平成30年5月27日に「NHK 主催フォーラムがんと生きる」で県内のがん相談支援センターの周知を行った。

滝沢会長から、できるだけ施設でセミナー等があればがん相談支援センターの周知を行っていただきたい。また、平成32年からがん教育が開催される。子供たちにもがんになればがん相談支援センターがあるとの周知も必要であると周知を行っていかねばいけない。徳島県がん診療連携協議会では今年度から教育関係、徳島新聞の方に委員として加わっていただいた。今後は、多数の方の協力をいただき、周知に努めていきたいとの要望があった。

金山部会長から、がん相談支援センターの周知がまだまだできていない。あらゆる機会を利用して周知を行いたい。徳島新聞でも色々なかたちで掲載をしていただきたいとの要望があった。

寺嶋委員から、相談したいのに相談ができていないのかとの質問があった。

滝沢会長から、どのように利用率が評価されているかは詳しくわからないが、患者会の方との話では患者さんに届いていない。がんとなった方にいざ必要となるため元気なうちは届いていないので

はないかとの回答があった。

金山部会長から、がんの患者さんに、その都度周知を行っていかねばいけないとの意見があった。

## ②図書館&がん相談支援センター連携ワークショップ報告と提案について

福田社会福祉士から、別紙資料7「中国・四国地区 図書館&がん相談支援センター連携ワークショップ」について説明があった。

①平成30年12月14日に広島県で開催され秋月社会福祉士参加した。その他、徳島県立図書館と徳島市立図書館の方、徳島県健康増進・がん対策担当者が参加された。

②ワークショップでは、がん相談の空白を少なくするために、公立図書館とがん相談支援センターが連携された活動状況の紹介があった。

③徳島県は、国から「がん情報ギフトセット」を寄贈された。

福田社会福祉士から、徳島県でも行政や図書館の方とがん相談に携わる関係者と意見交換会を開催を行ったり、図書館にがん相談支援センターポスター掲示、イベントの共同開催なども行っていければ周知にも繋がるため、ご意見をいただきたいとの要望があった。

寺嶋委員から、国立がん研究センターがマスコミを集めて、図書館の司書とのミーティングやレクチャーなど行えばいいのではないかとの意見があった。

金山部会長から、マスコミの方がいれば、色々な広報もしていただけるのではないかとの意見があった。

金山部会長から、各委員の方から、挨拶をいただきたいとの要望があった。

(徳島県立中央病院) 嶋田委員から、がん相談支援センターの周知を今後行えば、相談数も増加してくる。がん相談員の養成などに取り組みたいとの意見があった。

(徳島赤十字病院) 町田代理から、来年度は実務者会における分野推進チームのPDCAサイクルチームリーダーとして、他院と協力しながら取り組んで行きたいとの意見があった。

(徳島県鳴門病院) 漆川委員から、去年度は家族性腫瘍の相談を行うとの内容で報告を行ったが、担当者が勤務交代となったことから相談ができなくなったとの報告があった。

(吉野川医療センター) 林委員から、活動を周知していくのにあたり、マスコミを活用とのことであったが、当院は地元のケーブルテレビなどで各科ドクターが「教えてドクター」などのコーナーなどで広報を行っているとの報告があった。

(阿南中央病院) 高橋委員から、今年度末で阿南中央病院は合併して閉院となるとの報告があった。

(阿南共栄病院) 正宗委員から、来年度は阿南中央病院と合併して阿南医療センターとなる。現在は、相談室はあるがあまり動いていない。阿南医療センターになるにつれ、がん相談も行っていきたいとの意見があった。

(徳島県薬剤師会) 中村委員から、薬剤師に向けてのがんに関する教育や、がん相談支援センターの周知についてはまだまだ十分に出来ていないため、今後は少しでも行えるようにしていきたいとの意見があった。

(徳島県介護支援専門員協会) 東條委員から、自身の役割はケアマネージャーをされており、在宅での見取りに関わることも多い。がん診療の最先端をケアマネージャーとして果たしていきたい。また、がんに関する情報をケアマネージャーのネットワークで行いたい。介護を受けられる方、その

ご家族にも関わることが多いため、がん相談支援センターの周知を行っていききたいとの意見があった。

(徳島県健康増進課)鎌村委員から、情報提供・相談支援は非常に重要である。がん患者・家族の方にまずは知っていただく、そして相談の質も高めていくことが大事である。徳島県としてできることを一緒に考えながらやっていきたいとの意見があった。

(徳島県保健所)宮上委員から、保健所では共通とオリジナルで行っているがんに関する事業がある。共通では「がんの出前講座」があり、患者会がメインで行っていただいた。また、市町村が健康づくりの会議を開催しており、健康づくり事業の評価やがん検診の実施状況などについて助言等を行うなどしている。統計処理も行い県に報告をしている。その他、がん検診について予防活動などを行っているとの報告があった。

(徳島県歯科医師会)山口委員から、去年はがん連携に関して口腔ケア・口腔粘膜などの情報発信をお願いしたところ、徳島県がん対策センターホームページに掲載していただいた。がん相談支援センターの周知については、外来にいられた患者に対して歯科医師から案内ができるよう、歯科医師会員にも周知を行いたい。案内パンフレットなどを用意していただきたいとの要望があった。

金山部会長から、案内パンフレットは用意できるのかとの質問があった。

宮越事務補佐員から、各拠点病院の案内パンフレットは用意できるとの回答があった。

(徳島県医師会)森委員から、かかりつけ医の機能強化としてがん患者に対する相談支援も含まれている。また、がん教育も始まり、相談支援センターのパンフレットも学校に設置するなどよいのではないかと。徳島県医師会もがん相談支援センター周知に協力を行いたい。教育委員会と会合する機会も多く、進めていければとの意見があった。

(緩和ケア部会)寺嶋委員から、緩和ケアでは診断直後からの意思決定支援に関わるようにとのことになっており、相談にいられた方には緩和ケアチームなども相談に関わらなければならないのではないかと考えている。今後は併せて啓発を行っていききたいとの要望があった。

(徳島市民病院)渡辺委員から、当院でのがん相談の件数は平成 29 年度 900 件以上あり、非常に多くなっている。相談を受ける側の質の向上も充実していかなければいけないとの意見があった。

金山部会長と滝沢会長から、今後がん相談支援センターの周知、質の向上にもご協力をお願いしたいとの依頼があり閉会となった。